

2023年5月2日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	北 徹朗	所属	身体運動文化
		職位	教授

研究課題	①日本、アメリカ、イギリス、マレーシアのゴルフ場マネジメント研究 ②暑熱環境下において熱中症対策に優れた児童用帽子のデザイン開発
研究先機関	Montenegrin Sports Academy
主な滞在地 (国・都市名)	クロアチア・ドゥブロヴニク
渡航日程	2023年4月20日～2023年4月23日(4日間)
研究目的・理由	科研費研究課題ならびに民間グラント研究課題で遂行している、2つの研究成果について、 20th Annual Scientific Conference of Montenegrin Sports Academy “ Sport, Physical Activity and Health: Contemporary Perspectives”, で発表するため
研究成果発表予定 (展覧会、著書、 論文発表等)	日本体力医学会、日本ゴルフ学会等での報告を予定。その他、北が連載している商業誌(月刊ゴルフ・エコノミック・ワールド)でも随時成果を報告する。

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
4/20, 22:05	日本・東京（羽田）	4/21, 5:15	トルコ・イスタンブール		1
4/21, 7:25	トルコ・イスタンブール	4/21, 8:15	クロアチア・ドゥブロヴニク	発表	1
4/22, 20:45	クロアチア・ドゥブロヴニク	4/22, 23:40	トルコ・イスタンブール	発表	1
4/23, 2:20	トルコ・イスタンブール	4/23, 19:20	日本・東京（羽田）		1
備考					

以上

※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。
 ※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。

研究内容

申請者が2019年にも参加・発表した国際学会に4年ぶりに参加し発表した(20th Annual Scientific Conference during 20.-23. April 2023 in Dubrovnik Croatia.)。

4月21日の朝にクロアチア・ドゥヴロヴニク空港に到着し、カンファレンス会場(ホテルクロアチア)に移動した。午前中からの最初のセッション(研究発表プログラム)から聴講することができた。21日午前のセッション(10時頃～)発表された、J. Lulic Drenjak らによる【Cigarette smoking, sport participation and physical activity levels in university students from southeastern Europe; cross-sectional analysis of associations after COVID-19 pandemic】は、コロナ環境下におけるヨーロッパの大学生の喫煙や運動実施などについて調査されたものであり、申請者もコロナ環境下で多くの研究発表をしていたことから、ヨーロッパの大学生の状況がどうだったのかがい知ることができる一知見として、とても興味深く聴講した。授業の中でもここで聞いたデータやエピソードを織り交ぜながら進められそうだと感じている。

同日午後からのセッションの中では、N. Adamic らの【Teaching sports for children with Autism spectrum disorder】という研究に注目した。自閉症スペクトラムの子どもに対するスポーツ指導についての事例であったが、ムサビに限らず大学生における支援や指導方法についても、情報が不足している。海外の情報を得られたことは大きな収穫であった。

翌22日には、まず、大学院生の服部さんとの共同研究(Hattori.Y., Kita.Tet al.)である、【The inside temperature of red and white cap of elementary children during exercise】をポスター発表した。赤白帽や紅白帽は日本特有の慣習であり、それに関する質問と説明が多かったが、研究の核心である、熱中症予防に適した帽子のデザイン開発についても意見交換することができた。

次のセッションでは、北の単独発表(ポスター)として、【Seven Proposals for the Revitalization of Japan's Golf Courses: The Views of Golf Course Managers in Japan, the U.S., and the U.K.】を報告した。日本のゴルフ場は世界で3番目に多い(約2200カ所)が、ゴルフ人口の減少は世界的な傾向でもある。各国のゴルフ場マネジメントやゴルフの慣習について国別に比較し、さらに今回の学会に参加していた様々な国籍の研究者と意見交換することができた。特に、ゴルフ場が廃業し多くがソーラーパネルになっているというエピソードには驚く人が多かった。

まず、服部氏と共同報告した研究については、服部氏がD3の大学院生であり、これから大学院修了に向けた論文執筆活動について、各国の研究者のコメントや意見交換をしたことで多くの刺激やヒントを得ている。この経験を生かした、研究指導【大学院の授業】を進めたいと考えている。現在、この学会が発行する論文誌に、服部氏が大学院生として論文投稿中のため、結果が届き次第、修正や再投稿などの対応をしたい。

また、申請者が発表した内容は、日本においても、北がフロントランナーのため、また新たな知見や繋がりが構築され、【ゴルフ実技】授業や、2023年度は未開講だが【ゴルフビジネス論】の授業には直接的に行かされる意見交換やアドバイスを得た。今後、ゴルフ場が減少していくことは間違いないが、北が提言している「ゴルフ場改革7つの提案」を世界的なカンファレンスで報告したことにより、海外の研究者とのコラボレーションなども期待できる。

2019年にこのカンファレンスで報告した際にも、サウジアラビア王国のファハド国王石油鉱物大学(King Fahd University of Petroleum and Minerals)の、カウカブアジーム教授と知り合い、2020年にムサビで国際カンファレンスを計画しようとしていたが、コロナで中止(延期)となっている。今回のカンファレンスには参加者が多く、交流した研究者らとの今後の教育・研究交流が期待される。